

Living the Lotus 4

Buddhism in Everyday Life

2025
VOL. 235



立正佼成会 ブラジル教会

Living the Lotus Vol. 235 (April 2025)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537

東京都杉並区和田2-7-1 普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124 Fax: 03-5341-1224

E-mail: iiving.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 赤川 恵一

編集チーフ: 三川 紗知

校閲者: 小坂 和正、菊池 克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生き、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鑽会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life (法華経を生きる～生活の中の仏教) というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



信じて仰ぐ、ということ

庭野日鑑
立正佼成会会長

「信仰」とは

釈尊しゃくそんがお生まれになった日は、仏の教えを信仰する者にとってたいへん意義深い日ですが、日本では主に新暦の四月八日に、釈尊ごうたんの降誕こうたんを祝う法会ほうえを催します。

「生れし日はわれも小さしぶっしょうえ仏生会もりすみお」（森澄雄）という句の仏生会かんぶつえも、灌仏会や花まつり、降誕会と同じ釈尊の誕生を祝す法会のことです。この句からは、その日、寺院で花御堂はなみどうの誕生仏たんじょうぶつに甘茶そそを灌そそいだとき、自身の誕生と幼い釈尊のお姿とが重なって、ふと「自分もまた、釈尊と同じ尊い命とうとをいただいていたのだ」と気づいた感慨がよみとれます。

釈尊たんじょうげの誕生偈てんじょうてんげゆいがどくそん「天上天下唯我独尊」に示されるとおり、「人間に生まれたという尊さをしみじみかみしめ、ありがたさが感じられ」て、安心感とともに「仏さまの心と自分の心がいつも通い合って呼吸をしている」気持ちになるのが「信心だ」と開祖さまは述べています。ですから、降誕会などをおしておおぜいの人あが自他の命あの尊あさをかみしめ、その有あり難あさを受けとれるのは、とてもすばらしいことです。

さらに開祖さまは、「真実の人間の生き方を教えるのが信仰だ」とも述べています。これは、人間の生活や精神、生き方の根本を教えるのが宗教であり信仰だという意味で、その基本中の基本が、まさに「自分の命の尊さと、人間として生まれてきた有あり難あさを知ること」だと思ふのです。

また、釈尊誕生から七日ののちに生母せいぼ・摩耶夫人まやぶにんは亡くなりますが、そのこ

とに象徴される^{しょうろうびょうし}生老病死など、この世のものごとは絶えず移り変わるという真理（無常）^{むじょう}や、現象のすべては因と縁の作用による相関関係にある（無我・^{くう}空）という真理を見据え、ありのままを素直に受け容れて他者と調和していくのが「真実の人間の生き方」です。

つまり、こうした生き方を神仏の教えに学び、自己を成長させる尊い指針として信じて仰ぐことを「信仰」といい、その創造的実践の一つが、私たちの日々^{ぼさつぎょう}の菩薩行なのです。

時代の変化に惑わされず

近年、社会問題となっているいわゆる「闇バイト」^{やみ}について、信仰をもつある方がご家庭でこんな会話をしたそうです。娘さんに「若い人が、どうして平気で強盗や殺人に手を染めるのだろう」と投げかけると、娘さんがごく自然に「信仰がないからじゃない!？」と口にしたというのです。

信仰によって自他の命の尊さに気づき、自分の力だけで生きている人はどこにもいないとわかると、だれもがもつ思いやりや人の役に立ちたいという心がめざめて、そのような罪を犯さないのはもちろん、むしろ、人にやさしくあろうという「生き方の芯」ができるのではないか——そうした感覚が、「信仰のある家庭」という「苗代」^{なわしろ}で育った娘さんの言葉からにじみ出ている気がします。

ただ、これはけっして信仰があれば悪いことをしないと、信仰をすれば貧困や病苦から逃れられるということではありません。真実の生き方を教えてくれる尊い教え＝宗教を信じて仰ぐ生活のなかで、私たちはたくさんの学びを得て、人間としての向上をめざせるということです。

多様化する現代において、宗教や信仰に対する世間の見方は厳しいといわれます。しかし、人の胸奥には必ず、人生のよりどころとして信じられる教えを知りたい、学びたい、そして成長したいと希求する心^{ききゅう}がありますから、人はみなすでに宗教の「信仰者」ではないかと私は思うのです。

その認識に立てば、いま大切なのは小手先の手立てではなくて、私たちが仏道の根本である徹底した慈悲^{じひ}と思いやりの心で人さまとふれあい、いざというときに心の支えになれる一人ひとりになることです。そこに、なんともいえない安心感があれば、もともと信仰心を宿しているだれもが、おのずと「真実の生き方」に導かれていくのです。



（『佼成』2025年4月号）

Interview

自らの苦を成長の糧にして、人さまの救いに力を尽くしたい

ハワイ教会 ショーン・リチャーズ

立正佼成会には、いつごろ、どのようなきっかけで入会されたのですか？

2017年1月、47歳の時、私は職場の同僚でハワイ教会の支部長を務めていたカレン・フジイさんに導かれて、立正佼成会に入会しました。私は高校卒業の数年前からアルコールに依存するようになり、大学に進学はしたものの過度の飲酒で中退してしまいました。その後も自分でコントロールができないほど酒量は増え、酒が原因で何度も転職をくり返しました。2007年には医師からアルコール性肝炎と診断され、飲酒をやめなければ肝硬変になると警告されました。そんな健康状態にもかかわらず、私はそのあとも飲酒を続けていました。

しかし、以前から仏教に関心を持っていた私は立正佼成会に入会后、酒に溺れていた生活を切り替えようと、ハワイ教会で根本仏教や法華経を学びながら、積極的に道場当番に参加したり、教会行事の準備などのお手伝いをするようになりました。そして、さまざまな修行や教会活動に真剣に取り組む中で、人のお役に立てることがとてもうれしく、サンガの一員になれた喜びを実感しました。そんな中で、私はアルコールを口にしない生活を始めることができました。

アルコール依存症には、しばらく飲酒をやめていても、再飲酒をして元の状態に逆戻りしてしまう怖さがあります。私自身も2018年4月、ほんの少しの気の緩みから数か月間やめていたアルコールを再び飲み始めてしまったのです。やがて私のアルコール依存は仕事にも飲酒をしてしまうほど悪化していきました。しかし、その後、ローラ・メヤ教会長さんをはじめサンガの多くの方々の支えと励ましを受けながら、私はアルコール依存症の自助グループに参加するようになりました。自助グループのミーティングではお互いに体験談を語り合い、回復のための12のステップを実行しました。そして、その年の12月、私はようやく30年以上にわたるアルコール依存の生活から脱して、断酒に成功することができたのです。



ショーン・リチャーズさん

その後、同じように苦しむ人とかかわった経験をお持ちだとお聞きました。

ある時、私はメヤ教会長さんから「薬物依存で苦しんでいるクリスという青年の力になってほしい」とお願いされたのです。私自身、《やめたくても、やめられない》という依存症の苦しみ、回復するまでのつらさは体験として知っていました。ですから、慈悲の心をもってクリスの精神的な支えになり、寄り添ってあげたいという気持ちだったのです。その後、教会で何度も顔を合わせ、クリスの話にじっくりと耳を傾け、私自身も過去のアルコール依存の体験をありのままに伝えました。クリスの回復を祈るとともに孤立感を軽減するために「電話は夜中でも早朝でも24時間いつでもかまわないからね」と言って、どんな時も私がクリスのそばにいるという安心感を与えました。

またある時は、クリスに付き添って薬物依存症の自助

グループの集まりにも参加しました。クリスの姿を見ると、まるでかつての自分を見ているようでした。クリスと出会ったことで、私は両親をはじめ、これまで多くの人に心配をかけてきた自分に気づくことができました。「苦は成長の糧」と教えていただきますが、長年依存症で苦しんだ体験があるからこそ今、立正佼成会の教えのおかげで人さまをお救いするためにお役に立てている、としみじみと感じています。

今、どのような気持ちで修行に取り組んでいますか？

2024年6月に全米英語幹部教育がロサンゼルスで開催され、私は以前法華経セミナーと一緒に学んだ仲間と再会しました。法華経セミナーに参加した2018年はアルコール依存で苦しんでいた時期で、私は常に漠然とした不安に駆られ、幸せを感じることもなく、何度も佼成会を辞めたいと思っていました。それから6年後、幹部教育初日のご供養で導師のお役をいただいたとき、当時の自分の姿がフラッシュバックのようによみがえりました。そして同時に、法華経の教えとサンガの支え、励ましによって自分が成長し、本当に幸せになれたことをあらためて自覚することができました。私はアルコール依存という苦のおかげで信仰を深め、苦難を感謝で受け止められるようになりました。これからは、まだやって来ない先のことをあれこれと心配するよりも、今日一日、今の一瞬を大切に、豊かで充実した人生を歩むために精進していきたいと思っています。



2024年10月27日、大聖堂で行なわれた教師授与式のあと、同じく教師資格を授与された海外教会の参加者と(最後列左から二番目がリチャーズさん)



全米英語幹部教育でご供養の導師をつとめるリチャーズさん

2024年10月に教師資格を授与されましたが、現在の心境を教えてください。

今、私の心の中は喜びと誇り、そして謙虚な気持ちであふれています。教師資格拝受は私の新たな修行のスタートであり、これまで私が経験したさまざまな苦から解放され、あらためて自分の仏性に気づけたように思います。

法華経の中で心に留めている教えはありますか？

法華経の化城論品の「化城宝処の譬え」を心に深く刻んでいます。この中で宝の城に向かう旅人たちが長く険しい道を歩き疲れてしまったために、一人のリーダーが幻の城を出現させて彼らを休息させ、励ましなが、ついには宝の城に導くことが説かれています。この譬えは、これまでの私自身の人生と重なる部分が多く、メヤ教会長さんをはじめ教会のリーダーの方々を私を励ましなが、さまざまな方便を用いて真実への道へ導いてくださったことに心から感謝しています。

立正佼成会のどういうところに魅力を感じていますか？

私は『会員綱領』にとっても魅力を感じています。なぜなら、『会員綱領』には個人の人格完成とともに、その延長として家庭・社会・国家・世界の平和境建設のために菩薩行を实践するという私たち会員の修行の目的と規範が明確に示されているからです。そしてまた、立正佼成会が世界平和の実現のために国際的な宗教対話や

宗教協力を推進していることに大きな魅力を感じています。

最後に今、願っていることや今後の修行の目標を聞かせてください。

私のいちばんの願いであり、目標としているのは、すべての人が救われる法華経の教えをさらに多くの人たち

にお伝えしていくことです。会員同士のつながりをより強めて、今救いを求め、必要としている人たちをサンガの新しい仲間として迎えらるよう布教していきたいと思っています。そして今後、私はどのようなお役もすべて自分の成長に必要なお役だと信じて、喜びと感謝の気持ちで受けさせていただく決意です。



妻のキナさんと姪御さんと



まんが立正佼成会入門

社会を支え、文化をになう

庭野平和財団

平和な社会は、一つの国や宗教、政治や経済の力だけでつくれるものではありません。教育や文化、科学、思想などいろいろな分野で平和のために働く人びとと協力することで平和な社会が築かれるといえます。庭野平和財団はそうした考えに基づいて設立されました。

庭野平和財団は、宗教的精神をもとにして、いろいろな分野に目を向け、社会のために役立つ平和活動を行なう団体です。創立40周年を迎えた立正佼成会の記念事業として1978年（昭和53年）に設立されました。

財団では毎年、「庭野平和賞」の贈呈式を行っています。この賞は、いろいろな宗教者と手を取り合って国内外の争いや問題に取り組む人や団体を対象としたもので、一人（一団体）に贈られています。

このほかの取り組みとして、平和のために活動・研究する団体への支援、シンポジウムの開催、世界の人びととの文化交流を積極的に行なうなど、いろいろな方面で活動を展開しています。



豆知識

毎年五月の「庭野平和賞贈呈式」に併せて、同財団の理事長と受賞者との対談が行なわれている。国や文化、宗教の違いを認め合い、共に平和実現に取り組むことの大切さについて語り合っている。

※私的使用を除き、無断で複製・転載をしないでください。



『まんが立正佼成会入門』は、佼成ショップにて好評発売中です。

<https://www.koseishop.com/>

佼成雅楽会

しょう ひちりき りゅうてき
笙、箏、篳篥、竈笛という楽器を知っていますか？
千二百年以上も前からある日本の楽器で、その音楽を雅楽といいます。伝統ある雅楽をいまに伝えるのが佼成雅楽会です。

1950年（昭和25年）に発足した佼成雅楽会は、本部式典での演奏のほか、定期演奏会、神社や寺院での奉納演奏も行なっています。また、フランスのパリやアメリカのロサンゼルス、カナダのバンクーバーでも日本の伝統芸能を紹介しています。



学校教育

立正佼成会では、思いやりの心を持った人材の育成をめざして佼成学園を創立しました。佼成学園には幼稚園、男女別の中学校・高等学校などがあります。

また、^{ほうじゆ}芳樹女学院情報国際専門学校では、仏教の教えに基づいて一人ひとりの個性を生かすとともに、社会に貢献できる人材の育成をめざしています。





嫌いな人を好きになる

好き嫌いは「自分のわがまま」

立正佼成会開祖 庭野日敬



この春に就職したり、配置換えになったりして、新しい職場について三か月余りがたって、上司や同僚との人間関係に好き嫌いが生じるころあいになってきました。好きになるのはいいとして、嫌いな人ができるのは困ったことです。ストレスの原因にもなりますし、「あの人が嫌いだ」「この人が嫌いだ」といっていると、それだけ世間が狭くなります。ですから、嫌いな人を作らないことと、嫌いな人も好きになる工夫が必要になるでしょう。

好き嫌いは感情の問題ですから、それを逆転させるのはむずかしいことですが、不可能ではありません。というのは、人間の心は案外変えやすいものだからです。考えてもごらん下さい。鉄を金に変えることができますか。木をアルミニウムに変えることができますか。それに比べて、心というものはじつに流動的なのです。

では、どうしたら嫌いな人も好きになれるのか。それには、大きく分けて三つの方法があると思います。

第一は、自分自身を省みることです。好き嫌いには「自分のわがまま」という要素が多分にあります。それをよくふり返ってみることです。たとえば、きついことをいってくる人は嫌いな人と片づけがちですが、そのきつい言葉が、自分では気づけない欠点や短所を教えてくれるお師匠さんなのです。そこで、まず自分の考え方を变える努力をする。そうして自分が変わっていくと、ひとりでのに相手も変わってくるものです。これは、私が何十万という会員さんに接した経験から、太鼓判を押していえることです。

庭野日敬平成法話集 1『菩提の萌を発さしむ』P.74-75

釈尊の誕生偈から学ぶ

国際伝道部長
赤川 恵一

みなさん、こんにちは。春たけなわの心弾む楽しい季節になりました。草木が芽吹き、パステルカラーの明るい色合いに景色が彩られていく様子に、命の躍動を感じます。

今月は仏教の三大行事の一つである釈尊の「降誕会」を迎えます。釈尊がこの世に生まれてきてくださったことへの感謝を、在家仏教徒として改めて心に強く留める機会にしたいものです。さて、釈尊の誕生偈「天上天下唯我独尊」から、私たちは何を学ばばよいのでしょうか？

会長先生は今月のご法話で、人間として生を受けたことの有り難さを認識し、釈尊の命と同じ尊い命を自分もいただいているという真実に、私たちの一人ひとりが向き合うことの大切さを教えてくださっています。ともすれば、釈尊は自分とはかけ離れた存在だと考えてしまいがちですが、実は私たちも釈尊と同じ命の輝きを宿していることを頭の中でイメージしてみるのも、佼成会の信仰者としてとても大事なことだと思います。会長先生が日頃から「我を愛せよ、我を敬せよ」と教えてくださっているのも、私たちが自らの命に宿る尊い仏性に目覚めてほしいという願いがあるからこそと、私は感じています。

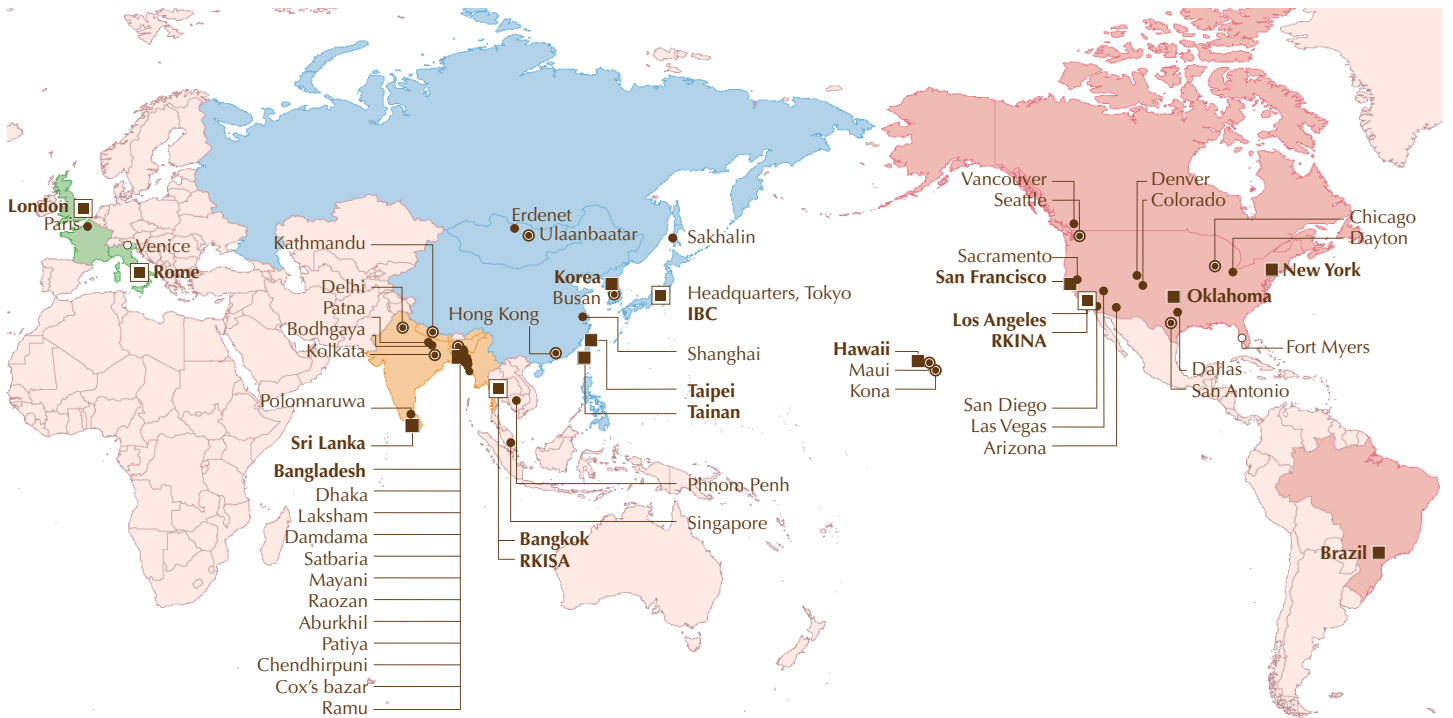
その上で、今月は会長先生がお示しくくださったように、徹底した慈悲と思いやりの心で人さまとふれあい、いざというときに人さまの心の支えになれるよう精進させていただきます。



3月15日、ロサンゼルス教会で開催された全米教会長理事長会議の参加者と
(前列右から3番目が赤川部長)



🌸 *A Global Buddhist Movement* 🌸



Information about
local Dharma centers



facebook



X

